

令和5（2023）年度  
事業計画書



令和5(2023)年4月1日  
学校法人 四條畷学園

## 目 次

令和5年度事業計画の策定にあたって	1
長期ビジョン・中期計画の全体イメージ	2
長期ビジョン・学園宣言の基本的考え方	3
中期計画の骨子	5
《事業計画》	
法人本部	6
四條畷学園大学	9
四條畷学園短期大学	11
四條畷学園高等学校	14
四條畷学園中学校	18
四條畷学園小学校	25
四條畷学園大学附属幼稚園	29
四條畷学園保育園	32
主な新規事業計画	34

# 令和5年度事業計画書の策定にあたって

昨年はコロナ対応の行動制限がなくなり、世の中全体もウィズコロナに向け、着実に動き出し、学園でも様々な行事が3年振りに復活しました。

一方、昨年の出生者数が80万人を切るなどコロナ禍で少子化が加速するとともに、エネルギー問題による光熱費やコロナ関連費用の負担増大などの社会経済的な要因により、学園や私学を取り巻く環境はますます厳しさを増しています。

このような外部環境が厳しさを増すほど、課題と危機感を共有する組織風土が重要になります。令和4年度からスタートした三次中計のとおり、100周年を「学園の原点」と「教育の原点」の二つの原点に立ち返り、協働・連携の組織風土づくりを進める機会にしていきたいと考えています。特に、100周年に向けて掲げた「これから目指す学園のイメージ」を共有し、「ティーチング×コーチング」など様々な課題を「学生・生徒ファースト」で「すべてを学びの機会に」の視点で改革に取り組んでまいります。

実際、各校園で進められている体験学習や探求学習からもわかるように、「学びの機会」は学園内外の至る所にあります。引き続き中計の重要テーマである「広報×教育改革」への取り組みという点からも、今後は「すべてを学びの機会に」の視点で更にバージョンアップし、学園教育のコンテンツとして発信力を強化していきたいと考えています。

昨年9月末、全学同窓会と法人本部を中心に、100周年記念事業推進準備委員会を立ち上げ、4月以降本格的に活動します。厳しい環境下ですが、記念事業についても「学生・生徒ファースト」の視点で教育環境の整備充実に取り組んでいきます。具体的には図書館リニューアルなどの記念事業も「学びの機会」として活用すべく、各校園と連携し、学生・生徒参画型で取り組んでいきます。今年度以降、小

これから目指す学園のイメージ

	これまで	これから(AI時代+VUCA時代)
モデル	従来型モデル	SG100 学び "kusunoki model"
教育の姿勢と学園の存在意義	教える	学ぶ
	一方通行	双方向(主体性・能動性)
求められる(育てたい)人材と能力	"知識"を教える場	生涯"学び続ける"ことを学ぶ場
	自立型人材	自立・自律型人材
教員の使命・コミット	問題解決能力	問題発見能力×問題解決能力
	卒業時の成長目標達成	卒業時の成長目標達成+将来の生き抜く力
学生・生徒の期待	成長の実感	
教育理念	人をつくる	生涯"学び続ける"人をつくる
立ち返るべき原点	学園の原点	学園の原点×教育の原点
	建学の精神(報恩感謝)	感謝は学びの根(モチベーション)になる
目指す学園像	教育機関	学び機関

◎第三次中計マスタースケジュール(抜粋)

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
記念事業	記念事業	記念事業推進委員会の立ち上げ		記念イベントの検討・実施	
	記念事業推進準備委員会の立ち上げ	記念事業の推進		記念誌編纂作業・発行	
				同窓会名簿整備・発行	
				寄附金推進体制の整備	
教育環境の整備	教育環境の整備		中産・エントランス整備内容の検討		
	教育環境の整備推進内容の検討		小学校校舎リニューアル・倉庫整備内容の検討		
			図書館整備内容の検討(学園版ラーニング commons)		
			建物・土地の有効活用		

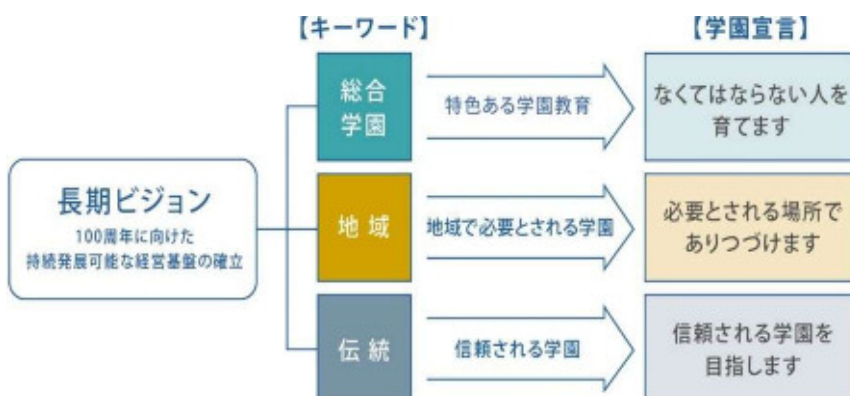
学校では校舎のリニューアルを検討していくほか、令和7年度末の学園中央道の払下げに伴う土地の活用整備についても具体的に検討を始めます。

以上、今年度は学園が目指す三次中計の方向性を教職員と共有し、コロナ禍により明確になった新たな課題を含めて改革に取り組むとともに、100周年に向け、建学の精神に

ふさわしい「感謝は学びの根(モチベーション)になる」協働・連携の組織風土づくりに注力していきます。

学校法人四條畷学園  
理事長 小谷 明

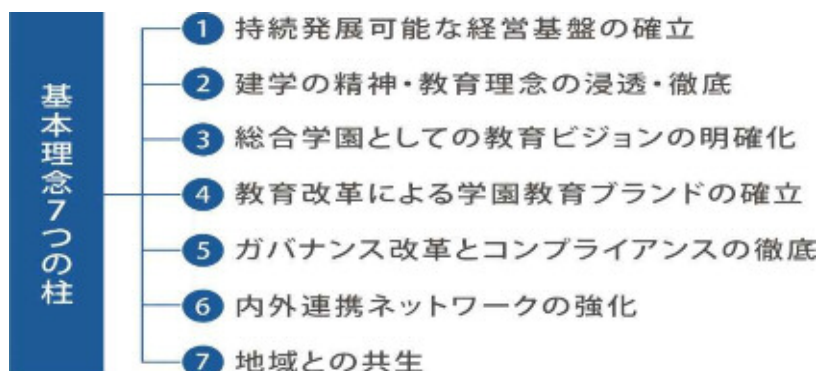
# 長期ビジョン・中期計画の全体イメージ



# 長期ビジョン・学園宣言の基本的考え方

## 1. 基本理念

今回の長期ビジョンでは 100 周年をいかたちで迎えられるよう七つの基本理念を設定して検討を進めました。



### ① 持続発展可能な経営基盤の確立

100 周年に向けた「持続発展可能な経営基盤の確立」のために、中期計画のテーマである「募集力の維持・強化」と「管理体制・財務基盤の強化」に取り組みます。

### ② 建学の精神・教育理念の浸透・徹底

90 周年を機に、建学の精神・教育理念の現代的解釈に基づき、総合学園としての「学園教育の特色」「育てたい人材像」「学園教育ブランド」の関係性を整理し、浸透・徹底を図ります。

### ③ 総合学園としての教育ビジョンの明確化

各校園の伝統的な「体験型教育」「基礎教育」「人間教育」を学園全体として捉え直し、進化させ、新たな教育ニーズにも応える学園版「アクティブラーニング」に取り組み、総合学園としての教育ビジョンの明確化を図ります。

### ④ 教育改革による学園教育ブランドの確立

現場の教育実践が学園教育ブランドとして発信力を持つよう、学園らしい「実践躬行」を通じた教育現場主導の教育改革を推進します。

### ⑤ ガバナンス改革とコンプライアンスの徹底

全学的な改革を推進していくためには、理事長・校園長をはじめとする各部署の責任者による各組織体のガバナンスが確立されていること、また、全関係者にコンプライアンス(法令順守)意識が徹底されていることが必要不可欠です。あわせて、財務情報の公開など運営面での透明性を確保していきます。

### ⑥ 内外連携ネットワークの強化

教学・募集広報両面から内外に開かれたオープンネットワーク型の組織運営により、強みである特色づくりと損益分岐点のコントロールを並行推進します。

### ⑦ 地域との共生

地域密着型の総合学園として、募集面だけではなく、各校園の特色を活かし、地域との共生のための連携施策を積極的に進めていきます。

## 2. 長期ビジョンの基本的考え方

### **【特色ある学園教育】**

- 学園には創立以来、徳・知・体の「三育教育」の伝統があり、幼稚園から大学まで各校園ごとに特色ある「体験型教育」「基礎教育」「人間教育」が行われてきました。
- 近年、社会から求められている「実習や体験活動などを伴う主体的・対話的で深い学び」すなわちアクティブラーニングと「三育教育」「実践躬行」を重視してきた学園教育とは考え方や方法が極めて近い関係にあります。
- 90周年を機に、建学の精神・教育理念の現代的解釈を通じ、総合学園としての「教育の特色」「育てたい人材像」「学園教育ブランド」を明確にし、学園の伝統的な「三育教育」や「体験型教育」「基礎教育」「人間教育」の特色を進化させ、新しい時代にふさわしく学園らしい「アクティブラーニング」モデルに挑戦していきます。

### **【地域で必要とされる学園】**

- 「学生生徒・保護者・地域の人々から『必要とされる』場所であり続ける」ためには地域との共生が重要になります。地域で必要とされているか否かの中長期的な評価は募集状況にも反映されます。現状、近隣9市の在籍者依存度は高水準ですが、将来の募集環境の厳しさを念頭におけば、従来以上に、学園ブランドの向上とともに様々な連携施策を通じて地域での存在感を高める必要があります。
- リハビリテーション学部に加えて看護学部を加えた保健医療系大学になった今、地域との共生のための知(地)の拠点整備への取り組み等、従来以上に、地域が抱える課題解決のための連携・協働への期待が高まっています。

### **【信頼される学園】**

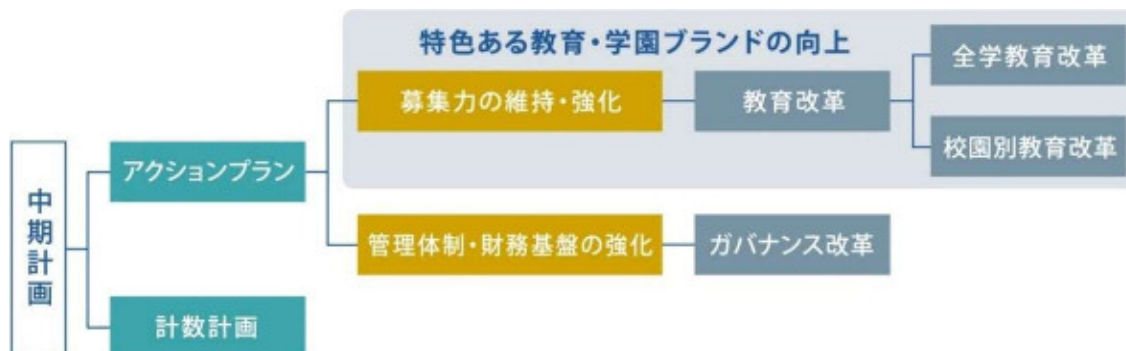
- 90年の教育と経営の伝統が地域や社会から学園に対する信頼の基盤になっています。100周年に向け、引き続き、信頼を重ね伝統を守っていくために、管理面や財務面での運営体制の強化を中心としたガバナンス改革を進めていきます。
- 近年の教育行政によるガバナンス強化の要請の背景には、厳しい環境のもとでは、学校経営も一般企業と変わることなく経営体のガバナンスがしっかりとしていないと存続危機の事態を招きかねないという共通認識があります。
- SNSの時代には、管理体制の問題はもちろん、学園関係者の不用意な言動が風評リスクを通じて信頼喪失そして募集力低下に直結することになります。一人ひとりのリスクに対する意識が従来以上に問われる時代になっているという自覚が必要です。
- 私学事業団方式の評価によれば、財務面では収益性や経費構造上の課題が明確であり、コスト意識とともに予算管理を中心としたPDCA管理の徹底が求められています。



## 中期計画の骨子

### 1. 基本的考え方

中期計画の骨子は以下のとおりですが、期間は 2022 年度～2026 年度の 5 年間になります。



### 2. 中期計画アクションプランの共通テーマ

長期ビジョンの基本理念である 100 周年に向けた「持続発展可能な経営基盤の確立」のためには「募集力の維持・強化」と「管理体制・財務基盤の強化」という攻めと守りを同時に高いレベルで実現することが求められます。これらの課題は校園間、教学・事務間の協働・連携等全学横断的な対応が求められることから中期計画アクションプランの共通テーマとしました。

#### 共通テーマ

- ① 募集力の維持・強化
- ② 管理体制・財務基盤の強化

### 3. 具体的な展開方法

中期計画アクションプランに基づき、全学、校園、本部・各事務室それぞれあるいは協働・連携して展開していきます。教育改革については「特色ある教育・学園ブランドの向上」に向けた教育実践の成果を今後の「持続発展」に必要な「募集力の維持・強化」につなげるため、特に「広報×教育改革」のシナジー効果の視点を重視していきます。ガバナンス改革についてはアクションプランの課題を中心に見直しを行い、引き続き体制整備を図っていきます。

#### 展開方法

- ① 教育改革(全学・校園別)
- ② ガバナンス改革

## 法人本部

No	施策種類	事業計画
1	重点取組事項	<p>(1)SG90－100Plan(長期ビジョン・中計)の推進</p> <p>①第三次中計初年度におけるアクションプランを学園内に周知し、進捗状況を管理します。 (全学園での PDCA 継続)</p> <p>②第三次中期計数計画と令和 4 年度実績の比較により、変動要因を分析のうえ、対策等を立案・実施します。</p> <p>(2)都市計画・校地変更への対応</p> <p>①大東市道の拡張工事の本格化にともない、児童・園児・教職員の安全管理を徹底します。</p> <p>②大東市の事業進捗に併せて、小学校南西角地について車両進入路と新設駐輪場の設計を進めます。</p> <p>(3)建物・設備の更新</p> <p>①総合ホール 2 階図書館のリニューアル工事の着工、及び 1 階食堂リニューアル設計に着手します。</p> <p>②小学校校舎のリニューアル計画について設計を完了し、施工業者を選定します。</p> <p>(4)小・中・高教職員への変形労働時間制導入</p> <p>①令和 5 年度から導入する変形労働時間制について、各校園における運用面の課題を抽出し、次年度に向けて更なる改善策を検討します。</p> <p>(5)創立 100 周年に向けて</p> <p>①創立 100 周年記念事業等の準備にむけて、準備委員会のミーティングを開始します。</p>
2	教育改革サポート	<p>(1)教育・管理システムの高度化</p> <p>①小学校のパソコン教室の PC を入れ替えます。</p> <p>②教職員パソコンの一部を Windows11 対応機種に入れ替えます。</p> <p>③コンピューターウイルス等の侵入に備え、データのバックアップをルール化するなど、危機管理態勢を強化します。</p> <p>④幼稚園におけるヨコミネ式教育の推進と、園児の個別指導体制の強化を支援します。</p>
3	財務	<p>(1)学生生徒等納付金の増収、及び経理の効率化</p> <p>①小・中・高の授業料口座振替について、web 受付を開始します。</p> <p>②小・中・高の授業料納付通知を郵便から web 通知に刷新します。</p> <p>③中学校の経費等事務処理について、教員から事務職員に集中するための施策に着手します。</p> <p>④インボイス制度への対応方針を決定します。</p> <p>(2)外部資金導入等による収入の恒常化</p> <p>①「経常費特別補助」獲得基準など、指標や数値目標を持って大学運営改革をサポートします。</p> <p>②寄附金の増加に向けて、返礼品付寄附金制度の PR 活動を多様化します。</p>



No	施策種類	事業計画
		<p>(3)人件費比率の適正化</p> <p>①令和5年度の期末手当支給水準を確定します。</p> <p>②小・中・高に変形労働時間制を導入し、労働基準法を遵守しつつ、年間を通じて教職員の効率的かつ健全な働き方を追求します。(5.人事制度全般の見直しとリンク)</p> <p>(4)経営の合理化進展、効率的な財政運営、健全な財務体質の維持</p> <p>①予算管理、支払管理を徹底します。</p> <p>②特殊要因等を分別しつつ、校園別予算及び校園別収支管理を継続します。</p> <p>③教職員に向けた財務情報の開示を進めます。(7.広報とリンク)</p>
4	教職員の育成	<p>(1)「教職協働」の定着</p> <p>①学園広報活動やリスク案件対応を通じて、教員と職員間の連携を更に強化します。</p> <p>(2)教員の組織的FD活動</p> <p>①外部コンサルタントによる定期セミナーを継続し、教職員のレベルアップを図ります。</p> <p>②自己研鑽手当等を利用した外部研修受講支援を継続します。</p>
5	人事制度全般の見直し・整備	<p>(1)教職員の定員管理</p> <p>①有期雇用教職員の業務範囲や手当を見直し、活用できるポストを拡大します。</p> <p>②幼・保教員の安定的確保に向けて、嘱託教員の処遇を見直し、募集チャンネルを拡大します。</p> <p>(2)管理職の育成</p> <p>①各校園で次世代を担う管理職やIT、IR関連人材の募集・育成に注力します。</p> <p>(3)給与体系の一般的な見直し</p> <p>①小・中・高に変形労働時間制を導入し、労働基準法を遵守しつつ、年間を通じて教職員の効率的かつ健全な働き方を追求します。(3.財務とリンク)</p> <p>②所定時間外労働に対する賃金支払い動向等を踏まえ、クラブ手当や役職手当などの諸手当、年休制度の見直しを検討します。(6.組織・権限とリンク)</p>
6	組織・権限	<p>(1)コンプライアンス・ガバナンスの強化</p> <p>①監事－内部監査－監査法人に加え、顧問弁護士や社会保険労務士、産業医との連携を強化し、法務関連事案や労務管理上の案件に迅速に対応します。</p> <p>②所定時間外労働に対する賃金支払い動向等を踏まえ、クラブ手当や役職手当などの諸手当、年休制度の見直しを検討します。(5.組織・権限とリンク)</p> <p>(2)内部統制、リスク管理機能の強化</p> <p>①人事担当者を増員し、勤務時間等、人事労務管理態勢の強化に取り組みます。</p> <p>②経理担当者、及び給与担当者の多能化に向けて、法人事務局内のOJTを加速します。</p> <p>③総務関連事務や資産管理のデジタル化、見える化を進めます。</p> <p>④内部監査担当と監事が連携のうえ、投資案件、リスク対応事案の監査を強化します。</p>
7	広報	<p>(1)戦略的広報体制の確立・展開</p> <p>①全学広報委員会の運営をサポートし、全学広報担当と大学・短期大学広報課、各校園広報担当者間の情報交換し、連携を強化します。</p>

No	施策種類	事業計画
		(2)情報公開 ①私学法や補助金助成基準を上回る水準でHP 開示項目の拡大を図ります。 ②図表・グラフ等による開示内容の充実を図ります。 ③財務情報の教職員向け開示を進めます。(3.財務とリンク)
8	施設整備・その他	(1)外部評価機関の活用 ①大学の外部認証評価、短期大学の自己点検評価における財務・ガバナンス部門を担当します。
		(2)施設の適切な管理 ①高等学校飯盛嶺校舎のトイレ等をリニューアルします。 ②大学リハビリテーション学部と総合ホールの空調機器を更新します。 ③温水プールの改修工事(照明と塗装等)を継続します。 ④高等学校本館の外壁を補修します。
		(3)危機管理と防災対策 ①大東市による道路拡張工事の本格化にともない、児童・園児・教職員の安全管理を徹底します。(1.重点施策とリンク)
		(4)都市計画への対応 ①大東市の事業進捗に併せて、小学校南西角地の車両進入路と新設駐輪場の設計を進めます。(1.重点施策とリンク)
		(5)キャンパスの総合整備 ①総合ホール 2 階図書館のリニューアル工事の着工、及び 1 階食堂リニューアル設計に着手します。(1.重点施策とリンク) ②小学校校舎のリニューアル計画について設計を完了し、施工業者を選定します。(1.重点施策とリンク)

# 大学

No	施策種類	事業計画
1	重点取組事項	<p>(1)教育の質の向上</p> <p>①アセスメント・ポリシーに従い各レベルの評価主体・時期に教育・学修成果を可視化・分析し、三つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)の達成度を評価し、継続的に必要な教育改善を実施する体制を確立します。</p> <p>(2)募集活動の強化</p> <p>①入学定員の確保…リハ:PTとOTの合計で80名を確保します。 看護:80名以上を確保するとともに偏差値をアップします。</p> <p>②指定校推薦による入学者の増加を推進します。</p> <p>(3)学生支援</p> <p>①入学前及び初年次教育を通じて基礎学力向上、主体的学修習慣の醸成、教養教育の充実を推進します。</p> <p>②アセスメントテスト結果等を踏まえ、各学生の資質・学力に応じた個人指導に努めます。</p> <p>③初年次から国家試験対策を意識した指導を徹底します。</p>
2	教育内容水準の充実	<p>(1)学生満足度の高い教育の提供</p> <p>①アセスメント・ポリシーに基づき、教育・学修成果を評価・分析し、学生満足度向上につながる改善を実施するPDCAサイクルを確立します。</p> <p>②ノウハウ共有化や内外の研修会への積極的参加等のFD・SD活動の充実により教職員の教育・指導スキルの向上を図ります。</p> <p>③学生の能力を伸ばす教育機会の提供および各学生の学修進捗度に応じた個人指導を徹底します。</p> <p>(2)自己アセスメント体制の確立</p> <p>①自己点検・自己評価委員会が主導し、内部質保証のためのPDCAサイクル確立と令和6(2024)年度の第三者評価受審に向けた体制整備を進めます。</p> <p>②ガバナンスコードの遵守状況をチェックするとともに、関連法の改正に対応してガバナンスコードの見直しを検討します。</p> <p>(3)ICTを活用した教育環境の整備と効果的な教育手法導入を検討します。</p>
3	教育研究基盤の整備及び環境の充実	<p>(1)教育・研究環境の充実</p> <p>①科研費獲得や健康科学研究所研究支援資金の有効活用を推進します。</p> <p>②補助金制度変更や修学支援制度機関要件厳格化に適切に対応します。</p> <p>③大学設置基準緩和に適切に対応します。</p> <p>④大学院構想を看護学部主導で検討します。</p> <p>⑤東南アジア等の海外大学との交流を推進します。</p> <p>(2)実習施設の充実</p> <p>①新規実習施設開拓や実習指導員養成を推進します。</p> <p>②コアの実習施設や実習指導員との連携を強化します。</p> <p>③看護学部で導入したシミュレーション機器等を効果的に活用します。</p> <p>(3)卒業生ネットワークの充実</p> <p>①卒業生の情報データベースを構築します。</p> <p>②卒業生交流イベントの開催に積極的に取り組みます。</p> <p>③卒業生意見を教育の質向上の活用できる仕組みを構築します。</p> <p>(4)利便性向上や検索可能リソース拡大による図書館利用率をアップします。</p>
4	社会貢献文化活動の推進	<p>(1)積極的な地域貢献</p> <p>①公開講座の充実による地域住民への貢献に努めます。</p> <p>②行政、地域企業、他大学等と連携し、住みやすい街づくりに貢献します。</p> <p>③地域包括ケアシステムへの協力や各種審議会等において積極的な助言・提言に取り組みます。</p>

No	施策種類	事業計画
5	学生募集	<p>(1)重点エリア並びに高大連携高校をはじめとした重点指定高校へのきめ細やかなアプローチのもと、出前授業等の対応強化を図り、効果的な募集活動を行うことで、オープンキャンパスへの参加者を増強</p> <p>①戦略的アプローチによるオープンキャンパスへの参加者増加を図ります。  ②新HPを活用した効果的なメディアミックス戦略を推進します。  ③高大連携強化による高校とのリレーションシップに努めます。</p>
6	進路対策・就職対策	<p>①キャリアセンターの機能向上により、効果的な就職活動を支援します。  ②大学院進学や保健師・助産師等への進学相談を充実します。</p>
7	災害対策への取組	<p>①「危機管理マニュアル」に基づき、防災訓練を実施する等、的確な災害対策、対応ができる体制を確立します。</p>
8	その他	<p>(1)事務品質の向上  コンプライアンス遵守を土台とし、多能化や業務の効率化を進め、リスク管理を強化します。</p> <p>①円滑な学生対応に向け、事務品質を維持・向上します。  ②外部研修会への積極的な参加により知識を向上、事務プロセスを改善します。  ③業務ミス、トラブル、ヒヤリハットを迅速に報告、問題点・対応策を共有し、リスク意識を強化します。</p> <p>(2)学生支援センターの活性化により教育サービスを向上</p> <p>①大学・短期大学の共通プラットフォーム化を推進します。  ②各事務室業務とのセグメント化を図り、事務効率化を推進します。</p>



## 短期大学

No	施策種類	事業計画
1	重点取組事項	<p>(1)募集活動の強化 重点エリア・指定校への効果的な活動により、募集定員 180 名(保育 100 名、ライフ 80 名)の入学者を安定的に確保します。</p> <p>(2)教育の質の向上 短期大学における3つのポリシー-(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)-に基づき、アセスメントポリシーに従って学修成果の達成状況を評価し、教育の質の向上に努めるとともに、早い段階から就職活動のサポートに努めます。 就職・進学支援を目的に、各種資格検定試験等へのサポート体制の充実に努めます。</p> <p>(3)学生支援 学生の学びの状況等把握に努め、親身な生活・学習面のサポート、保護者との密な連携等により、休学・退学の可能性がある学生に対し丁寧な対応に努めます。</p>
2	教育内容・水準の充実	<p>(1)共通 コロナ禍の動向を見極め、面接授業と遠隔授業を効果的に活用する等、ハイブリッド型による適切な授業運用を通して、学生の学修機会の確保と感染防止対策の徹底を図り、質の向上を目指します。</p> <p>①「課題発見・対応能力」を高めるため、アクティブラーニング等の教育ツールを積極的に活用しコミュニケーション能力の向上に努めます。また、必要な教養・知識を備え、主体的行動ができる人材を育成します。</p> <p>②学生の満足度が高く、質の高い教育を提供します。</p> <p>ア. 新入生全員に「入学に至る意識調査」を実施し、学習意欲や短期大学への期待を把握し、入学直後の指導を充実します。</p> <p>イ.到達目標達成評価表(ルーブリック評価法)により、運用や評価方法等、評価者の理解力を高め、カリキュラムの改善について検討します。</p> <p>ウ.「授業評価アンケート」の実施、結果を踏まえ、「授業の質の向上」を図ります。</p> <p>(2)保育学科 ①ピアノ等のマンツーマン指導による「音楽教育」、幼児を魅了する感性を磨く「美術教育」等の魅力ある教育を目指し、競合他校との差別化を図ります。 ②「指定園」の見直し、取組み強化を検討します。実習先との意見・情報交換の機会を増やし、事前・事後学習の内容を改善に努め、実習内容の一層の充実を図ります。</p> <p>(3)ライフデザイン総合学科 現実社会に対応し生き抜く力を育成します。社会や学生のニーズを的確にとらえ、授業内容を工夫し、各学生が「自分の適性」に気づく教育を行います。また、各スキルと就職先・キャリアパスの関連を具体的に例示し、主体的にライフデザイン(人生設計)を描く能力を高めます。</p>
3	教育・研究基盤および環境の充実	<p>(1)教育提携の在り方について、社会情勢や学生ニーズを踏まえ、学びやすい環境について検討します。</p>



No	施策種類	事業計画
		<p>(2)教育に関する最新情報の提供や職場での悩みに対する助言を通して、地域と協働の研究基盤の整備、検討に努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大東市・四條畷市・門真市の各種委員会への派遣により、情報交換に努めます。</li> <li>・大東市、四條畷市との連携事業を通し実践・研究の質を高めます。</li> </ul> <p>(3)「なわてドリル(e-ラーニング)」の活用を推進し、基礎学力の向上に努めます。基礎学力とSPI能力の連動性や対象科目の変更等を検討し、充実に努めます。</p> <p>(4)ICTの活用の1つとして「eBook」による図書館機能の充実、活用、利用を推進します。</p> <p>(5)科研費取得目標を300万円とします。</p>
4	社会貢献・文化活動の推進	<p>(1)地域住民および企業のニーズ等実態把握に努め、求められる「リカレント教育」について検討し、地域に貢献します。</p> <p>社会人リフレッシュ教育講座の新規講座の開講に向けて地域ニーズの把握に努め、参加者の増強を目指します。</p> <p>(2)地域・大学と連携し、教育活動や各種ボランティア活動を通して地域との接点を強化します。</p>
5	学生募集	<p>(1)重点エリアならびに高大連携高校をはじめとした重点指定高校へのきめ細やかなアプローチのもと、出前授業等の対応強化を図り、効果的な募集活動を行うことで、オープンキャンパスへの参加者増強に努めます。また、受験しやすい入試選択等、魅力ある入試制度の周知に努めます。</p> <p>(2)広報媒体の多様化ならびに高校教員との接点強化により、短大の魅力を伝えるべく、ターゲット層への発信力(わかりやすさ・見やすさ等)の強化、改善に努めます。</p> <p>(3)学校見学会・出前授業や短大生の実体験紹介を増やす等、学生の顔が見えるオープンキャンパスに変革します。</p>
6	内部進学	<p>(1)学園高校向け説明会等で、学びと将来の就職先が具体的にイメージできるよう模擬授業の内容や説明、開催時期を工夫し、本学に対する理解を深めます。</p> <p>(2)高校・短大を通じて継続的に挨拶やマナー等の基本を教育する仕組み(情報交換、定期的な協議会)をとおり、「社会適応力」を高めます。</p>
7	進路対策・就職対策	<p>(1)各種業界等が主催する「就職フェア」等への積極的参加を促し、サポートに努めます。また、就職先の求人状況等実態把握に努め、新たな就職先の開拓に努めます。</p> <p>(2)大学進学(編入)希望者の個別相談に応じ、適確な支援を行い、就職以外の選択肢をアピールします。</p> <p>(3)卒業生のネットワークを活用した懇談会等による卒業生と学生相互間の交流の機会を増やし、学生の就職意欲の高まりや就職先の開拓に繋がります。また、学生の就職活動に係る保護者説明会を開催します。</p> <p>(4)「公務員対策講座」の実施方法・内容を工夫し、参加者・出席率を向上させ、公務員志望・適性のある学生を支援します。</p>
8	災害対策への取組	「危機管理マニュアル」に基づき、防災訓練を実施する等の確かな災害対策、対応ができる



No	施策種類	事業計画
		体制の確立を目指します。
9	その他	<p>(1)事務品質の向上</p> <p>コンプライアンス遵守を土台とし、多能化や業務の効率化を進めるとともに、リスク管理を強化します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・円滑な学生対応に向け、事務品質の維持・向上に努めます。</li> <li>・外部研修会への積極的な参加により知識の向上、事務プロセスの改善に繋がります。</li> <li>・業務ミスやトラブル、ヒヤリハットを迅速に報告、問題点や対応策を教職員が共有し、リスクに係る意識の強化、定着に努めます。</li> </ul> <p>(2)学生支援センターの活性化により、教育サービスの向上を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学・短期大学の共通プラットフォーム化の推進を図ります。</li> <li>・各事務室業務とのセグメント化を図り、事務効率化を推進します。</li> </ul>



## 高等学校

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1.建学の精神と教育理念に基づく学校経営計画及び教育計画の策定・実践	(1)理念・方針にもとづく教育計画の再構築	①年度の初めに、各学年・各校務分掌で、教育理念・教育方針を踏まえた指導目標・教育活動計画を策定し、その目標の実現に努めます。	①目標や計画の重要性から教員の自己評価平均 4.0 以上を目指します。(前年度 3.6⇒3.9 に改善)
	(2)教職員の資質向上と学校運営体制を改善・整備	①当学園の特徴を前面に打ち出し、新学習指導要領に沿った取り組みを実践していきます。 ②教員の「授業力」向上のため、教務部と委員会を中心に、研修・会議・公開授業を活用し、教育課題や指導方法について話し合い有効な実践につなげます。 ③より良い教育実践のために、教員間のコミュニケーションや連携を図ります。 ④総合的な探究の授業では、地域や企業連携とした PBL(問題解決学習)の取り組みを中心として社会人基礎力を育みます。	①～④の自己評価は、全て 4.0 以上を目指します。(前年度①3.8⇒4.0 に改善,②3.6⇒3.7 に改善,③3.3⇒3.7 に改善,④設定なし)
2.高校生に求められる学力及び態度・諸能力の基盤の養成	(1)主体的・対話的で深い学び(AL 授業)の実践	①基本的な知識・技能の習得のために分かりやすい授業改善に取り組み、内部での授業公開を定例化します。 ②思考力・判断力・表現力の養成のための授業改善を行います。 ③課題発見能力と課題解決能力を養うための授業を実践します。	①～③の自己評価は、全て 4.0 以上を目指します。(前年度①3.9⇒4.0 に改善,②3.8⇒4.0 に改善,③3.5⇒3.8 に改善)
	(2)集団・社会に貢献できる態度・実行力	①基本的な生活習慣・態度・マナーを身につけるための指導をしっかりと行います。 ②学級活動や行事を通して、協働や責任感などの社会性を身につける指導を行います。	①・②の自己評価は、全て 4.0 以上を目指します。(前年度①3.7⇒3.8 に改善,②3.6⇒3.7 に改善)
	(3)部活動を通して心身の鍛錬	①短い活動時間で集中し、技術や精神力など自らの心身を主体的に鍛える指導を実践します。 ②協調性や行動力など社会性を身につけるようチームワークを重視した指導を行います。	①・②の自己評価は、総合的に 4.0 以上を目指します。(前年度①・②3.8⇒3.9 に改善)
	(4)市民性を育む教育	①18 歳からの選挙権を見すえて、市民性・主権者意識を育む教育を実践します。 ②よりよい地域を目指したボランティア活動等の	①・②の自己評価は、全て 4.0 以上を目指します。(前年度①3.1⇒3.3

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
		集団的、体験的な活動並びに地域活動への参加を推奨し、実践的学習を推進します。	に改善,②3.0⇒3.3 に改善)
	(5)国際的資質を育む教育	①海外からの研修生・留学生を受入れ、また、本校から研修生・留学生を派遣し、これからの社会に必要な国際感覚を育てます。	①自己評価は、4.0 以上を目指します。(前年度2.9⇒3.1に改善)
3.人としての在り方・生き方を考え、他者と共により良く生きていくための人権意識の育成	(1)自己・他者が共により良く生きようとする態度	①学年別にテーマを決め、多様な人権問題への適切な理解と態度を身につける学習を実施します。 ②学級生活や活動を通して、多様な価値観を認め合い、仲間と共に調和して生活しようとする態度を養います。 ③いじめアンケートを学期ごとに実施し、普段から生徒の日々の様子をしっかりと観察することで、個人に応じたきめ細やかな指導を行います。	①～③の自己評価は、全て 4.0 以上を目指します。(前年度①3.7=3.7 で同様,②3.7⇒3.9 に改善,③3.8⇒4.0に改善)
	(2)一人ひとりのニーズに応じた指導	①様々な課題を抱える生徒一人ひとりをしっかり理解し、丁寧に対応し支援を行います。 ②生徒のニーズを把握し教職員が連携し、チームとして特別支援教育を実施します。	①・②の自己評価は、全て 4.0 以上を目指します。(前年度①3.8⇒4.1に改善,②3.6⇒3.7 に改善)
4.進路目標の実現に向けて、未来を切り拓くキャリア教育・進路指導	(1)未来の目標を実現する能力	①生徒が自分の興味・関心を知り進路目標を考える進路指導を行います。 ②職業に対する関心・意欲を高める体験的学習を実施し、キャリア教育を推進します。	①・②の自己評価は、全て 4.0 以上を目指します。(前年度①3.8⇒4.1に改善,②3.9⇒4.1 に改善)
	(2)生徒の目標を実現させる進路相談・支援	①進学や就職にかかわる進路情報を提供し、丁寧で個性に応じた相談や助言を行います。 ②生徒のニーズに対応した放課後・休業中の講習を実施します。	①・②の自己評価は、全て 4.0 以上を目指します。(前年度①3.9⇒4.1に改善,②3.5⇒3.7 に改善)
5.安心・安全な社会を築くための態度と行動力の養成	(1)防災・減災に向けた防災教育・訓練を実施	①マニュアルに沿った避難訓練や地震・津波・火災等、防災・減災に向けた防災訓練を実施します。 ②自然災害に対する科学的理解を深め、防災意識を高める学習を実施します。	①・②の自己評価は、全て 4.0 以上を目指します。(前年度①3.9=3.9 で同様,②3.5⇒3.6に改善)
6.内部進学強化	(1)中高連携の強化	①中高連絡会議の内容の充実と、高校での教育内容の情報をしっかりと中学生・保護者に提供します。	①・②・③を実施することで、当学園中学校から専願第一希望者、25 名以

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
		<p>②当学園中学生への進学相談において、親切・丁寧な対応をします。</p> <p>③全コースの教育内容を学園中学生に公開および説明することで、興味関心を深めます。</p>	上を目指します。(前年度20名)
	(2)高短連携の強化	<p>①高短合同会議、高短連絡会を通して、高短の連携を密にします。</p> <p>②当学園短大の就職と編入学の状況について説明会を実施します。また、内部進学した先輩が社会人として活躍している様子を高校生に紹介し、内部進学の利点をアピールします。</p> <p>③当学園短大生の資格取得状況を伝えることで、就職に結びつけた進学指導を行います。</p>	①・②・③を実施することで、当学園短大への内部進学者、60名以上を目指します。(前年度46名)
	(3)高大連携の強化	<p>①高大連絡会議をさらに充実します。</p> <p>②リハビリテーション学部・看護学部の志願者増加に向けた魅力ある説明会・体験授業等を実施します。</p> <p>③当学園大学の内部進学事前相談会を行うことで、内部進学者の増加につなげます。また、大学の体験授業を実施することで、それぞれの学部への理解を深めます。</p>	①・②・③を実施することで、当学園大学への内部進学者、10名以上を目指します。(前年度8名)
7. 生徒募集対策の強化	(1)募集・広報体制の整備	<p>①募集広報部と専従者が連携し、広報活動をより強化します。</p> <p>②募集活動を効率よく行うために、統計的結果を基にして、計画を策定します。また、教職員が情報共有できるための研修を実施します。</p> <p>③活動予算の立案と効果的な企画を検討していきます。</p>	情報提供としての自己評価は、4.0以上を目指します。(前年度4.0⇒4.2に改善)
	(2)募集・広報戦略の改善	<p>①募集方法や手段・時期の設定として、web広告を有効的に活用し、より効果的な広報活動を行います。</p> <p>②活動対象に応じた戦略として、教育活動を動画で閲覧できるように、生徒目線で編集することで広報していきます。</p> <p>③教育活動内容やプログラムの情報を幅広く提供するための工夫としてHPの充実を図ります。また、さまざまな教育活動の動画を作成し、活動様子や戦績などを積極的に発信します。</p>	

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
	(3)教育の特色の 明確化	<p>①各コースの特色と実績を明確にするために、それぞれの生徒に合った進路選択ができるように努めます。</p> <p>②教育活動の充実と生徒の成長を図るために、生徒にわかりやすい授業の提供と学期に1回の授業評価アンケートを実施します。</p> <p>③教育理念に即した人を育てる教育の実践として、「実行から学べ」をテーマに生徒が参加し楽しめる企画を検討します。</p> <p>④特技を有する入学生が増加する対策を引き続き行っていきます。</p>	



## 中学校

### 【学校全体】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1. 建学の精神に基づく教育の実践と私学としての独自性	(1) 私学の独自性	<p>① 職員研修などを通じて、建学の精神・教育理念などを理解・実践します。</p> <p>② 入学式・卒業式・全体集会などを通じて、建学の精神・教育理念について生徒に話をし、理解に努めます。</p> <p>③ 教育方針「個性の尊重」「実行から学べ」「明朗と自主」「礼儀と品性」に沿って、学校行事も含めあらゆる教育活動を通して、人格形成を図ります。</p>	<p>① 教員による建学の精神・教育理念の理解・実践目標を 4.2 とします。 (令和4年度教員 4.2)</p> <p>② 諸式を通じて校長講話の中で、建学の精神・教育理念等をわかりやすく説明します。(令和4年度保護者 4.1 生徒 3.8)</p> <p>③ 宿泊行事や社会見学など多彩な行事を通じて教育方針に基づいた活動を実践します。 (令和4年度生徒 4.3)</p> <p>②③の目標は 4.2 とします。</p>
	(2) 生徒のニーズに対応した教育活動	<p>① 授業評価を検証し、改善点を見出し、生徒にとってよりよい指導を行います。</p> <p>② 発展探究クラスは、「総合的な探究学習(G-pro)」を授業に取り入れ、探究活動を通じて協働し自ら発信する力を養い、将来の進路を自ら実現させます。</p> <p>③ 発展文理クラスは、学年での探究活動に加え、日々の確認テストやハイレベルな目標設定を通じて、主体的に応用的な内容まで学ばせ、よりハイレベルな進路実現のニーズに対応します。</p>	<p>発展探究・発展文理の2つのクラス編成により、新しい教育活動を行います。新カリキュラムは令和3年度より移行しており、今年度移行が完了します。</p> <p>生徒がそれぞれのカリキュラムを理解するように努めます。(令和4年度生徒 4.0 保護者 4.0)</p> <p>それぞれの目標値を 4.2 以上とします。</p>
	(3) 進路指導	<p>① 生徒が、自ら夢に向かう進路実現ができるように また、主体的により良い進路選択ができるよう、進路情報を提供するため、3年時2回の進路ガイダンスを行います。</p> <p>さらに、各担任による個別対応もしっかりと実践します。</p>	<p>① 生徒の将来を見据え、探究活動を通じて自己発見や進路情報の提供を行います。 (令和4年度教員 4.4)</p> <p>目標は 4.2 以上とします。</p>



中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
		<p>② 自分の進路について主体的にまた積極的に考え、そのための進路を選択できる力を育みます。</p> <p>③ 個々の生徒に応じた目標を実現させるよう、3年の1学期より希望調査をとり、生徒・保護者との面談を大切にしながら進路相談や進路支援を行います。</p>	<p>② 探究活動を通じて、自己肯定感を高め、自ら考え、進路選択できる力を養成します。</p> <p>③ 個々の生徒に応じた目標を実現させるよう、進路相談や進路支援を行いません。(令和4年度は保護者・生徒 3.8 教員 4.4) 4.0 以上を目標とします。</p>

### 【学習指導・人権教育】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1. 学習面における、きめ細かい指導の実践と確かな学力の育成	(1) 教科指導	<p>① 各教科、シラバスに沿って指導し、グループ学習を取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業改善に取り組めます。</p> <p>② ICT 機器(タブレット)を積極的に利用し、分かりやすい授業を目指し、創意工夫を行います。</p>	<p>① 教員によるシラバスに沿った指導、グループ学習や AL を取り入れ、より一層内容定着の充実を図ります。目標を 4.2 以上にします。(令和4年度教員 4.2)</p> <p>② 教員による授業への創意工夫を行い、すべての活動や教科等でICT機器の有効活用を通じ、分かりやすい授業の展開の目標値を 4.2 以上にします。(令和4年度教員 4.3) 生徒・保護者による「ICT機器の利用など授業は分かりやすいか」には(令和4年度 生徒 4.1 保護者 3.8)と開きがありました。両者の目標値を 4.2 以上に設定します。</p>

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
		<p>③ 学力の向上と定着をめざすため、早朝学習・放課後学習(自習室活動)・休暇中の講習を実施します。</p> <p>④ 自らの課題に向けて考え、協働し、自己肯定感を高め、学習意欲を高めるために探究活動を実施します。</p>	<p>③ 教員による生徒の学力向上・学習の遅れている生徒の支援を個々の生徒の実態に合わせて行なっています。 (令和4年度教員 3.8)と評価が低いです。 教員による生徒の学力向上への取り組みは、(令和4年度 生徒 4.2 保護者 3.9 教員 4.2)で、保護者と生徒で開きがあり、4.2 以上を目標とします。</p> <p>④ 探究活動を通じて、生徒が「主体的・対話的で深い学び」を実現し、様々なことに興味・関心を持って、意欲を得るようになることを目標とします。</p>
2. 人権を尊重する学校づくり	(1) 人権教育	<p>① 「心のバリアフリー」の観点から、障がい者理解を深めつつ、人権感覚を持ち、相手の立場になって行動できるよう、日々の学校生活すべての活動を通して人権教育を行います。</p> <p>② いじめ等の予防、早期発見のため各学年、日直面談を行い、学期ごとに「仲間づくりアンケート」を実施し、クラスの現状を把握し、人権意識を育てます。</p> <p>③ 障がい者と外国人差別について(1年)、身分差別と平和学習(2年)、総まとめと進路について(3年)と学年毎にテーマを決め人権教育を行います。</p>	<p>① 教員は周囲の人を尊重し、よりよい人間関係を築いていく態度を養う教育を実践します。(令和4年度教員 4.3)であり、4.2 以上を目標とします。</p> <p>② 生徒・保護者による教員の「いじめ」の対応は適切か(令和4年度 生徒 4.0 保護者 3.8)とまだ保護者の評価は低い。 目標は 4.0 以上とします。</p> <p>③ 教員は人権に係わる様々な問題に関心を持ち、人権意識を高める教育を実践します。(令和4年度教員 4.1) 4.2 以上を目標とします。</p>

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
		④ 12月の人権週間には中学校行事として、人権講演会を実施します。	④ 人権講演会や道徳的な行事については(令和4年度 生徒 4.4 保護者 4.0 教員 4.1) 生徒の満足度も上昇し現在の人権教育を継続し、目標を4.2以上とします。

【学校生活】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1. 基本的な生活習慣の確立と安全で安心な学校づくり、および生徒支援を通じた豊かな人格形成	(1) 生活指導	① 個別の問題行動の対応にとどまることなく、基本的な生活習慣と規律ある態度を養う指導を行い、集団生活において社会性を身につかせます。 また、生徒にとって過ごしやすい生活環境であるために規則の改訂にも継続的に取り組みます。	① 教員による、規則を守らせる指導 挨拶・礼儀を重んじるは(令和4年度 4.0)と下降しています。目標は4.2以上とします。生徒・保護者による教員の規則を守らせる指導(令和4年度 生徒 4.3 保護者 4.0)と高評価です。引き続き4.2以上を目標とします。
		② 重点を置いた指導として、生徒指導部が中心となり、乗車マナーの啓発や挨拶運動を実施します。	② (令和4年度生徒 3.8 保護者 3.8 教員 4.2) 生徒会を中心に積極的に挨拶運動を行い、学校月間目標により、さらに啓発を行います。目標値を4.0以上とします。
	(2) 危機管理と情報公開	① 教職員は生徒の安全が何よりも大切であるという認識を持ち、危機管理マニュアルを作成し、安全・安心な学校をめざします。また、災害に備えて備蓄品を整えます。  ② 情報モラル講演会などにより、スマートフォ	① 安心・安全な学校を目指すことに関して、危機管理マニュアルの整備(令和4年度教員 4.1)、緊急時の警察、消防との連携・訓練等の学校安全対策(令和4年度教員 4.1)どちらも高評価です。4.2以上の目標とします。  ② 情報機器の正しい使

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
		<p>ン・タブレットなどの情報機器の正しい使用法を習得させます。</p> <p>特に SNS、写真撮影等個人情報の公開の危険性、人権面での指導に力点を置きます。</p> <p>③ 学校ホームページの公開掲示板等で可能な範囲の教育活動や情報の公開を行います。</p>	<p>い方では(令和4年度 生徒 4.2 保護者 3.6 教員 4.4)と保護者が生徒に対する信頼がまだ低いようです。4.0 以上を目標とします。</p> <p>③ 情報公開については、保護者の満足度が下がりました。(令和4年度 生徒 4.4 保護者 3.9 教員 4.4) よりわかりやすい方法により 4.2 以上を目指します。</p>
	(3) 学校行事や部活動	<p>① 社会性や協調性の育成のため、部活動を奨励します。</p> <p>② 情操面を豊かに育てるため、宿泊研修、校外学習、視聴覚行事、オリエンティングなど多彩な行事を充実させます。</p> <p>文化祭、体育会では生徒会を中心に、自主的に活動する姿勢を育てる機会にします。</p> <p>③ 全クラスでさまざまな行事と探究活動を結びつけ、発展探究クラスでは「探究(G-pro)」授業を充実させます。</p>	<p>① 説明会等で、部活動の参加を奨励します。(令和4年度 生徒 4.3 保護者 4.0) 4.1 以上を目標とします。</p> <p>② 多彩な行事の中で、協調性を持ちながら主体的に考え、行動できる生徒を育てます。</p> <p>(令和4年度 生徒 4.3 保護者 4.1) ウィズコロナに移行し評価上昇しています。4.2 以上を目標とします。</p> <p>③ 主体的に活動し、協働し、表現できる生徒を育てます。</p>
	(4) 課題を抱える生徒への支援	<p>① 生徒が抱えている問題に対して、きめ細かい相談・指導を行います。</p> <p>担当を中心に主任、クラブ顧問など多くの教員で情報を共有し、対応します。</p> <p>② 問題解決の部署として ICP(臨床心理研究</p>	<p>① 担任は日直面談等きめ細かい支援を行なっています。(令和4年度教員 4.1) 目標は 4.2 とします。</p> <p>② 面談等の満足度は</p>

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
		所)の存在の明確化をするとともに、生徒相談係を中心に相談しやすい環境づくりに努めます。	低いです。(令和4年度 生徒・保護者 3.8) 4.0以上を目標とします。

#### 【社会貢献】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1. 保護者・同窓会・後援会との連携と社会貢献	(1) 保護者・同窓会・後援会との連携推進 地域の社会活動への協力	① 保護者と協力しPTA活動を活発にするとともに、保護者・同窓会・後援会との連携し、文化祭・体育会などの活動を支援します。  ② 生徒会活動を通して復興支援やボランティア活動等で地域に協力します。	① 保護者から見るPTA活動は継続するコロナ禍もあり(令和4年度 保護者 3.7)低評価です。目標値 4.0に近づけるよう活動を支援します。 ② 生徒から見る生徒会活動は(令和4年度 生徒 3.7) 活性化を目指し、目標値を 4.0 とします。

#### 【生徒募集】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1. 生徒募集対策	(1) 学外説明会の充実による受験者確保	① 生徒による学校紹介、クラブ紹介や個別説明会、プレテストを実施します。また、発展探究・発展文理クラスの活動を紹介し、より一層の理解と共感を得るように工夫します。	① 全学広報サポート室を開設し、各説明会の参加者数の前年度比増加を目指し、受験生との接触回数増加を目指します。受験者数を増やし、入学者数 160 名以上の安定獲得を目標とします。
	(2) 小中連絡会等による内部小学校との連携充実 内部進学者数の増加努力	① 中学校紹介・進路相談コナ-などを設置し、公開授業・体験授業などへの児童の参加を勧めます。 本校探究活動のあり方を理解してもらうよう努力します。	① 内部小学校との連携を深め、内部進学者 70%以上を目標とします。
	(3) 中高連絡会等による内部高等学校との連携充実	① 各教員が内部高等学校の教育内容を十分に理解するように努力します。	① 高校の積極的な紹介、個別ブース等で理解を深め、学内進学は、在籍者数の 20%以上を目標とします。
	(4) 高校進学実	① 生徒が自主的・主体的に選択できる、他私	① きめ細やかな個別指

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
	績の強化	立学校にない進路指導を実現します。 多彩な高校への進路実績により、募集力向上に努めます。	導や学習活動に加え、特待生制度による優秀な生徒を獲得による相乗効果により、全体の進路実績強化を目指します。
	(5) ホームページの充実	① HP や SNS などを通じて、受験生・保護者に学園の魅力をわかりやすく伝えます。	① 本学の教育の特長を説明する等ホームページを充実させます。 また、常に SNS 等による最新の情報発信を実施します。





## 小学校

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1.建学の精神を土台とした私学の独自性	建学の精神の理解と実践と教育計画の構築	①職員研修などを通して、建学の精神・教育理念や方針を理解し、実践します。  ②小学校教育指針に基づく教育計画の構築し、実践します。	①教育方針の具体化に関する教員自己評価 4.4 以上を目指します。(令和 4 年度 4.4)  ②年間教育計画に関する教員自己評価 4.2 以上を目指します。(令和 4 年度 4.2)
2.基礎学力の徹底と学園小独自のカリキュラムづくり	(1)基礎学力の徹底	一人ひとりの興味関心を大切に、学習に自信を持たせるように配慮し、意欲的態度や実行力を養いながら基礎学力の徹底を図ります。	保護者アンケート「基礎学力向上を目指して努力している」の評価を 4.2 以上に向上します。 学力向上に関する教員自己評価 4.5 以上を目指します。(令和 4 年度 4.5)
	(2)独自のカリキュラムづくり	①指導要領の内容に加えて、学園小独自に開発・改良を加えた学習を組み合わせ実践します。  ②英語教育の充実・ICT 機器を用いた各教科の効果ある授業の実践を目指します。	①保護者、児童アンケートのうち、「教え方は工夫されている」の評価を保護者 4.2 以上、児童 4.5 以上に向上します。  ②わかりやすい授業の実践に関する教員自己評価 4.5 以上を目指します。(令和 4 年度 4.5)
	(3)教員の指導力向上	教員の指導力向上を目指し、研修を計画するとともに、定期的に学習内容を公開し、教育関係者の意見を参考に教育内容を精選、改善します。	計画的な教員研修に関する教員自己評価 4.4 以上を目指します。(令和 4 年度 4.4)
3.自律の意識を育むための基本的生活習慣の育成	(1)基本的生活習慣の育成	①「何を」「どの機会に」しつけるかを熟慮し、規範を示すことにより、生涯にわたる自律の意識を育む指導を行います。  ②意識的に縦割り集団を組織したり、グループ活動を取り入れたりして「みんなでいっしょに」「高学年を敬う」「低学年を育む」を常に考えさせる	①礼儀を重んじる態度に関する教員自己評価 4.4 以上を目指します。(令和 4 年度 4.4)  ②保護者アンケート「子どもの主体性・自主性は育む環境が整っている」の

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
		ことで、自律の意識を育みます。	評価を保護者 4.5 以上に向上します。 主体性重視に関する教員自己評価 4.4 以上を目指します。(令和 4 年度 4.4)
	(2)規律遵守の向上	規律遵守の意識レベルの向上を図ります。	児童・保護者アンケート「きまりやマナーの指導に力を入れている」の評価を児童 4.5 保護者 4.2 以上に向上します。 規則を守る態度に関する教員自己評価 4.3 以上を目指します。(令和 4 年度 4.3)
4.社会性を 培う集団活 動の充実	社会性や市民性を 育む体験活動	①子どもの成長の糧となるもの、時代の要請に答えるべき行事を見極め、「何をこそ学ばせるべきか」を熟慮探求します。 ②集団生活を通して、子ども同士のコミュニケーション能力を培っていきます。また、子ども自身の活動を重んじ、実行を助け、その結果を常に振り返るように指導します。  ③体育会や秋祭りなどの全校行事、修学旅行などの宿泊行事をさらによりよき体験活動になるよう改善していきます。	①② 児童・保護者アンケート「子どもの友達関係はうまくいっている」の評価を児童 4.5 保護者 4.3 以上に向上します。 学習意欲の向上に関する教員自己評価 4.6 以上を目指します。(令和 4 年度 4.6) ③保護者、児童アンケートのうち、「行事は楽しく充実している」の評価を保護者 4.6 以上、児童 4.8 以上に向上します。
5.主体的な 生き方の尊 重	主体的な学び、共 によりよく生きてい く考えの形成	①道徳教育 学級生活や道徳の授業を通して、多様な価値観を認め合い、共に生きていこうとする態度を養います。 ②人権教育 人としての在り方・生き方を考え他者とともによりよく生きていくための人権意識を育成しま	①思いやりのある態度に関する教員自己評価 4.5 以上を目指します。(令和 4 年度 4.5) ②人権意識向上に関する教員自己評価 4.2 以上を目指します。(令和 4 年

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
		す。また、いじめ等の予防、早期発見のため「いじめアンケート」や「日記」などから迅速に方策をねり、対応します。	度 4.2)
6.安全安心な学校づくりを目指した教育環境の充実	(1)防災教育・不審者対策	児童の生命を守るために、地震などの一般防災に関する対策とマニュアルや不審者等の危機管理に関する対策とマニュアルなど緊急時の対応を常に再検討し、訓練を実施し、校内の安全性を高めます。 また、災害に備えて備蓄品を整えます。	緊急時・防災訓練の安全対策に関する指導の教員自己評価を 4.4 以上を目指します。(令和 4 月年度 4.4)
	(2)危機管理と情報モラル	①自他の命を尊び、安全な暮らしを希求する態度を育てることをめあてに、「非行防止教室」等の外部組織の研修を受け、一人ひとりの安全意識向上に役立てます。 ②「情報モラル教育」授業を行い、携帯やパソコン等の情報機器の正しい使用法を習得させます。特に個人に係わる情報の公開の危険性は人権の観点からも指導します。	①防災や安全に関する指導の教員自己評価 4.2 以上を目指します。(令和 4 月年度 4.2) ②マナー・モラルに関する教員自己評価 4.2 以上を目指します。(令和 4 年度 4.2)
	(3)美化	①落ち着いた環境の下で、安全に学校生活を過ごせるように、教室や運動場等の美化に取り組みます。  ②老朽化した設備を修理・改修し、校内の安全性を向上します。	①児童・保護者アンケート「学校の美化は行き届いている」の評価を、児童 4.1 保護者 4.1 以上に向上します。 美化に関する教職員の自己評価 4.1 以上を目指します。(令和 4 年度 4.1) ②保護者アンケート「学校の施設設備は安全を考慮し整備されている」の評価を 4.2 以上に向上します。 好ましい環境に関する教員自己評価 4.0 以上を目指します。(令和 4 年度 3.8)

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
7.内部連携の強化	内部連携の強化	<p>①中学校 小中連絡会などを通じ、教員間の相互理解と交流を深めます。 授業やクラブ体験を設け、中学の活動に親しみ、内部進学者数の増加に努め、募集活動を充実します。</p> <p>②幼稚園 幼小連絡会などを通じ、教員間の相互理解と交流を深めます。 絵本読み聞かせや合同物作り体験を設け、小学校の活動に親しんでもらい、内部進学者数の増加に努め、募集活動を充実します。</p>	<p>①令和4年度は、中学内部進学者65名(66%)でした。(98名中)(令和5年度入学者) 令和5年度は、内部進学者70%以上を目標とします。</p> <p>②令和4年度は、幼稚園からの内部進学者は32名でした。(令和5年度入学者) 令和5年度は、内部進学者45名以上を目標とします。</p>
8.生徒募集の対策	生徒募集対策	<p>①学校ホームページや広報活動(パンフ配布)などの活動を拡充します。 外部幼稚園や幼児教室での入試説明会や体験授業の実施し、外部からの受験者増加につなげます。</p> <p>②外部幼稚園や幼児教室への広報活動を拡充します。</p>	<p>①学校ホームページ等の情報提供に関する教員自己評価4.3以上を目指します。(令和4年度4.3)</p> <p>②令和4年度は入学者80名でした。(令和5年度入学者)(12月現在) 令和5年度は集定員充足90名以上を目標とします。</p>

## 幼稚園

No	施策種類	事業計画
1	園を取り巻く環境	<p>(1)1号認定こども(幼稚園児)の減少</p> <p>幼児教育分野は縮小傾向にあります。特に1号認定子ども(幼稚園児)の人数は急速に減少してきています。私立幼稚園は大東市3園、四條畷市 1 園のみで、どの園も定員を充足していません。</p>
		<p>(2)2号認定こども(保育園児)の減少</p> <p>厚生労働省の試算によると2号認定子どもの数も2025年度にはピークを打ちます。実際、待機児童・保留児童の数は大幅に減少してきています。大阪府の待機児童は2013年に2,050人であったのが、2022年には134人迄減少してきています。</p> <p>今後、幼稚園、認定こども園、保育園全てでの競争となります。全体が縮小傾向にあるときは、かつての幼稚園がそうであったように、園の人気は二極化していきます。つまり、集まる園と集まらない園に分かれます。</p>
2	学園幼稚園の状況	<p>(1)1号認定子ども(幼稚園児)の継続的な減少</p> <p>1号認定子ども(幼稚園児)の園児数の減少が続いています。また、最近では減少人数が多くなっています。</p>
		<p>(2)2号認定子ども(保育園児)の大東市居住者数の低下</p> <p>2号認定子ども(保育園児)は定員を充足していますが、大東市に居住している園児数は減少しています。(大東市だけでは定員を充足できない状況です)</p>
		<p>(3)遠方からの園児数の減少</p> <p>ヨコミネ式教育法の取り組みの弱体化に伴い、ヨコミネ式教育法の熱心な支持者が入園しなくなりました。</p>
3	基本方針	<p>(1)満足度の向上</p> <p>保護者の満足度向上を図ります。保護者アンケート、懇談会等を随時実施し、保護者ニーズを正確かつ計量的に把握することに努めます。そして、保護者の方の要望等には是々非々で対応していきます。</p>
		<p>(2)特色の明確化</p> <p>ヨコミネ式教育法に注力します。他園との差別化を図るため、ヨコミネ式教育法を園の特色として明確に位置づけ、強力に推進します。特に、読み書き計算に注力します。</p> <p>今年度は「守破離」の「守」の段階として、指導を仰いでいる幼児活動研究会および横峯先生の教え・指導を忠実に守ることに徹します。</p>
		<p>(3)地域ナンバーワン</p> <p>少子化が進展する中、幼稚園、保育園、認定こども園はますます二極化の様相を呈しています。この状況にあっては地域ナンバーワンの園を目指し、園の評判を上げることが必要です。</p> <p>園が教職員の能力水準・態度、教育・保育内容の質、利用のしやすさ、DX化、安全対策、衛生管理等総合的観点から保護者の方に選ばれる園を目指します。</p>

No	施策種類	事業計画
		<p>(4)働きやすい職場と強力な教職員体制の構築</p> <p>教職員が自由に意見を言え、働きやすく楽しい職場を造ります。そして、全ての責任を負う園長が決定し、教職員はその決定に従う強力な教職員体制を構築します。</p>
4	ヨコミネ式教育法の強化	<p>(1)学ぶ力</p> <p>「読み書き計算」を最重視し、毎日それぞれ必ず20分実施します。幼児期の保育にとって「読み書き計算」が最も重要との認識のもと、ヨコミネ式教育法による個別指導、自学自習方式により基本的技能の獲得を図ります。(「読み書き計算」は勉強ではありません。小学校入学後に必要な基本的技能と語彙力の獲得が目的です。)</p> <p>(2)心の力</p> <p>跳び箱は順番に段数を上げていきます。一段一段苦勞し、子ども達は乗り越えていきます。跳べるようになるとまた一段上へ目標ができます。こうして「強い心」を造ります。次に、子ども達にはお手伝い、用事をさせます。この経験を通して「優しさ」「思いやり」を学びます。「優しさ」「思いやり」は言葉では教えることは出来ません。</p> <p>(3)体の力</p> <p>小学校に入るまでに運動神経を造っていきます。運動神経は生まれつきのものではありません。幼稚園で体操を重視する目的は体操そのものを伸ばすことではありません。体力をつけることもありますが、本来の目的は「強い心」を造ることにあります。</p>
5	教育時間の強化	<p>(1)保育の見える化</p> <p>「読み書き計算」「体操・かけっこ」について、学年毎に進行予定表を策定し、カリキュラムの内容と進行予定を明確にします。これらの目標、進行予定表は保護者の方に開示します。これにより、保育の見える化を図ります。</p> <p>(2)保育目標 100%の達成</p> <p>上記(1)に加え、学年毎に達成目標を数値化して設定し、保護者の方に開示します。例えば、年度末までに、年中は本読み〇〇冊、年長は跳び箱〇〇段以上などです。そして、この設定した目標を全ての園児が達成することを目標とします。</p>
6	預かり保育	<p>(1)体制の強化と見直し</p> <p>正課(教育時間)と同等の位置づけと考え、保育体制の強化を図ります。体制の強化により保育内容の見直しと教育・保育の質的な向上を図ります。</p>
7	教育時間の増強	<p>(1)午後保育の日数増</p> <p>始業式、終業式の日を原則午後保育とします。(1学期の終業式は宿泊保育実施のため午前保育となります。)</p> <p>また、1学期の終業式を後ろ倒し、2学期の始業式を前倒しします。</p> <p>(2)夏期保育の再開</p> <p>8月中旬に自由登園により10日間実施します。この期間は通常保育を実施します。また、送迎も実施します。</p>



No	施策種類	事業計画
8	園児募集	<p>(1)園庭開放(名称「未就園児遊ぼう会」)の強化 園庭開放を重視し、概ね毎月開催とし実施回数を増やします。また、従来の子ども中心の場だけであったのを、親同士のふれあいの場、情報交換の場も提供します。</p> <p>(2)2歳児教室の見直し 他園との差別化を図るため遊び中心の自由保育からヨコミネ式教育法の設定保育中心に保育内容を転換します。</p>
9	教職員の資質向上	<p>(1)特別なニーズを持つ子どもに寄り添う保育の充実 特別なニーズを持つ子どもに寄り添う保育について専門知識の習得を図ります。特別支援学校教諭免許状を保有した教員を中心としたインクルーシブ保育の体制を構築します。また、療育分野についても調査・研究を行います。</p> <p>(2)「ジェンダー・ステレオタイプ」を作らない意識の徹底 ジェンダー・ステレオタイプを作らない意識を徹底し、普段から教職員自身が発言や活動の運営方法等に注意を払います。また、ジェンダーレス保育についても調査・研究をすすめます。</p> <p>(3)教職員の能力・資質向上 教職員の能力・資質向上のため必要な外部研修等の受講を推進・支援します。また、園内研修の充実、レベルアップを図ります。</p> <p>(4)事故防止の強化・徹底 自園のヒヤリハットの充実・共有および公表された他園事例の収集等を通して、全ての教職員が「自分の園でも起きるかもしれない」との意識をもち、事例を振り返り、更なる改善に取り組みます。このことにより大きな事故を未然に防ぎ、安全な教育・保育を推進します。</p> <p>(5)人権意識の向上 園児の人権に十分配慮し、園児一人一人の人格を尊重して保育を行います。このために教職員への研修等による人権意識の向上に努めます。</p>

## 保育園

No	施策種類	事業計画
1	重点取組課題	<p>(1)事故防止対策の強化 事故の発生削減と重大な事故を未然に防ぐために教職員の安全教育を徹底します。 ・外部研修への参加、マニュアルの熟読等 ・ヒヤリハット報告と情報共有 ・安全点検の実施 ・食中毒防止の徹底</p> <p>(2)感染症対策の強化 ・流行している感染症の知識習得・情報収集に努めます。 ・施設、備品等の消毒を徹底します。 ・保育室の換気、室温、湿度等に十分留意します。 ・教職員の健康管理を徹底します。</p> <p>(3)学園幼稚園との連携強化 施設の共同利用、行事への参加等より連携を強化し、保育レベルの向上、内部進学強化を図ります。</p>
2	保育の質の確保・向上	<p>(1)教職員の資質・専門性の向上 園外研修、園内研修について計画的な受講を通して、教職員等の資質・専門性の向上に務めます。園内研修では外部講師を招いて、学園幼稚園と同様にヨコミネ式教育法の習得・向上を図ります。</p> <p>(2)設定保育の強化・充実 かけっこ・体操、造形表現、リトミック、学習[文字・数字・国旗・地理など]、絵本の読み聞かせをより一層強化・充実させます。 また、専門家による設定保育を、教職員が共に行うことにより、教職員の保育スキルの向上に努めます。</p> <p>(3)保育体制の充実 休憩対応保育士の配置、配置基準以上に教職員を配置する等保育体制を充実し、向上を図ります。</p> <p>(4)インクルーシブ保育の充実 インクルーシブ保育についての専門知識の習得・実践に務めます。</p>
3	働き方改革への取り組み	<p>(1)DXの推進 コドモン、ビジネスチャット等の活用によりデジタルシフトを推進し、教職員の事務負担を軽減するとともに保護者の方の利便性にも配慮します。</p> <p>(2)ペーパーレスの推進 必要なもの以外は紙での配付等を廃止し、事務負担を軽減するとともに保護者の方の利便性にも配慮します。</p>

No	施策種類	事業計画
4	保護者満足度の向上	(1)休園をしない体制 園事情による休園をしない体制をつくります。
		(2)保育映像の提供 保育風景を録画し、YOU TUBEの限定公開機能により自宅等で見る事ができる機会を継続的に提供します。 [注]公開期間は短期間に限定。URLを秘匿し検索できない設定とします。
		(3)情報の共有化の推進 ビジネスチャット、コドモンを通して、保護者の方と園で必要な情報をタイムリーに共有します。
5	社会貢献・文化活動の推進	(1)地域枠の設定 地域枠の設定により、地域の待機児童、保留児童の解消に貢献します。
6	園児募集	(1)内部関係者への告知の強化 学園の教職員、保護者の方等への継続的な広報等により保護者会・同窓会・後援会等の学園関係者への認知度を向上に務め、安定的な園児確保につなげます。
		(2)WEBサイト、SNSによる広報の充実 WEBサイトの充実、Facebook等のSNSのフォロワー数の増加により、園の認知度を向上させ、園児募集につなげます。
		(3)歳児別人数の適正化 園児の歳児別定員にそった園児募集を心がけ、歳児別人数にばらつきがないようにします。
		(4)キャンセル待ちの確保 キャンセル待ちの園児を常時確保し、園児が途中で退園してもすぐに欠員を補充できる体制をとります。
		(5)自社枠の確保 令和5年度より義務化される自社枠の定員枠について、他園情報のリサーチ、園児確保の方策等を検討します。

## 主な新規事業計画

No	事業名称	担当校園
1	空調機更新工事	法人本部
2	小学校校舎リニューアル工事(第1期)	法人本部
3	図書館リニューアル工事(100周年事業)	法人本部
4	トイレ乾式化改修工事	法人本部
5	受変電設備関係リニューアル工事	法人本部
6	高校本館 外壁補修工事(第1期)	法人本部
7	温水プール長期修繕工事(第1期)	法人本部
8	エレベーターメンテナンス工事	法人本部
9	コンピュータ室機器等更改	小学校
10	教職員用 PC の一部入替	法人本部
11	給排水設備更新工事	法人本部
12	学園基幹スイッチングハブの入替	法人本部
13	呼気ガス分析装置更改	大学 リハビリテーション学部
14	外壁打診調査(10年に1度)	法人本部
15	教室用大型ディスプレイ購入	高等学校
16	大型遊具リプレイス	幼稚園
17	音楽研究室用楽器購入	短期大学
18	園児用午睡センサー	保育園
19	北条学舎電話交換機入替	短期大学
20	新生児ベッド購入	大学 看護学部
21	楽器購入 (吹奏楽部)	中学校

[注]投資額順(降順)に掲載。



Shijonawate Gakuen



創立以来変わらない感謝の気持ちを未来へ